

中山間地域の景観に関する地元住民および外来者の景観認識特性に関する研究 愛知県豊田市椿立自治区を事例として

○中村 駆 [東京農業大学地域環境科学部造園科学科] 町田 怜子 [東京農業大学地域環境科学部造園科学科] 麻生 恵 [東京農業大学地域環境科学部造園科学科]

キーワード：景観 里山 観光 景観認識

1. 研究の背景及び研究対象地域

景観法の施行に伴い、景観の保全、良好な景観の形成に向けた取り組みが活性化している。景観法では、都市から農山漁村にわたる国土全体の景観形成の促進を目的と掲げている。今回対象とする愛知県豊田市椿立自治区では、地域住民が主体となって、水車小屋の復活など景観保全に向けた取り組みを行っている。本研究では、愛知県豊田市椿立自治区を対象地とする。愛知県豊田市椿立自治区は、奥三河地域の中山間地域である。中山間地域特有の問題として、少子高齢化が進み、里山が荒れ、耕作放棄地が増加しイノシシなどの獣害も多く発生している。少子高齢化・過疎化が進み、深刻な担い手不足となっている。

豊田市は平成22年に豊田市景観計画¹⁾を策定している。地域活動支援事業(わくわく事業)を実施し、地域資源の活用に力を入れている。しかし、中山間地域の細かな景観計画は策定されていない。そのため、今回の研究を行うことによって、対象地域の景観を保全するきっかけを作ることができる。

農村景観に関する研究としては、麻生(1993)²⁾は岡山県蒜山地域において地域住民の景観認識構造をアンケート方式により明らかにした。また、加藤(2001)³⁾は地元住民および外来者の景観認識特性の違いを明らかにした。さらに、栗田(2008)⁴⁾が、棚田景観の地域内外の住民により、写真分類実験や評定尺度法を用いて、眺望や緑量を維持することで開放性や自然性を評価することを明らかにしている。しかし、これは棚田を対象に限定したもので、地域全体を対象にした文献は数少ない。

自治区内には旧椿立小学校を利用した、あすけ里山ユースホテルや国指定無形民俗文化財である「綾渡の夜念仏と盆踊」があり、外来者も多く訪れる。そのため、沢山の場所が人の目に入るため、保全する場所がどこなのか、また、自治区としてどこを守り育てていきたいのかを明確にして椿立自治区の景観計画を策定する必要がある。この結果を景観計画の策定の手掛かりとする。

2. 研究の目的

本研究は、地元住民と共同で農村景観を守り育てていくために、内部からの目線だけでなく、外部から評価することによって、景観の構造や特徴、景観がもたらす印象と関係性を明らかにする。外部、内部の景観認識を明らかにすることによって、新たな価値観からの景観の評価保全を行うことができる。

3. 研究方法

3-1 評価対象地の設定

評価対象地の選定方法は、地域の景観構成の特徴を明らかにするために、2014年7月13日の現地調査を実施した。その結果、「水車小屋と棚田」、「圃場整備された水田」、「耕作放棄地」、「棚田から転換された植林地」、「近代的な建築様式の家屋」、「茅葺をト

タン葺にした家屋」、「椿立自治区の特徴的な民家」、「整備され復活した旧道」、「廃校となった椿立小学校」、「綾渡の夜念仏と盆踊りの文化が残る平勝寺」の10箇所の評価対象地を選定した。

3-2 評定尺度法

評定尺度法を用いて、地域住民及び外来者に景観評価を行った。評価項目は、景観認識特性についての研究を加藤（2001）³⁾が明らかにした項目より「美しさ」「面白さ」「親近感」「地域(椿立)らしさ」「保全の重要度」の5つの評価項目を設定し、「全く感じない」、「あまり感じない」、「やや感じる」、「感じる」、「大変感じる」の5段階の評定尺度を用いてアンケート調査を実施した。

4. 結果

2014年8月26日より9月5日までの13日間でアンケート調査を実施し、262部配布した結果、地域住民から128部、外来者より30部回収した。アンケート調査の評定平均値の分析した結果、美しさの評価項目は、平勝寺の4.17が一番高く、次いで水車小屋の4.15が高かった。親近感の評価項目は、椿立小学校の4.15が高かった。面白さの項目軸は、椿立小学校の4.23が一番高かった。地域らしさの評価項目は、椿立小学校の4.23が一番高く、次いで特徴的な民家が4.18と高かった。保全の重要度の評価項目は、椿立小学校の4.54が一番高く、次いで水車小屋の4.31が高い結果が出た。以上の結果から椿立小学校は、親近感や面白さ等多様な評価が高いことが考えられた。また、平勝寺や水車小屋も同様に高い結果が得られた。

表1 アンケート調査結果

	美しさ (標準偏差)	親近感 (標準偏差)	面白さ (標準偏差)	地域らしさ (標準偏差)	保全の重要度 (標準偏差)
水車小屋	4.15(1.01)	3.54(1.08)	3.54(1.10)	4.15(0.99)	4.31(1.06)
圃場整備	3.92(1.08)	3.33(1.12)	2.83(1.10)	3.58(0.99)	3.50(1.09)
耕作放棄地	1.83(0.80)	2.42(1.02)	2.17(0.99)	2.08(1.10)	2.92(1.34)
植林地	2.55(0.92)	2.27(0.89)	2.91(0.99)	3.09(1.04)	2.91(1.20)
近代的な建物	2.30(1.11)	3.10(1.04)	2.50(1.09)	2.80(1.05)	2.90(1.17)
トタン葺	3.00(1.06)	2.64(1.04)	3.09(1.01)	3.00(0.97)	3.54(1.01)
特徴的な民家	4.09(1.08)	3.82(1.06)	3.55(1.07)	4.18(0.97)	3.91(1.10)
旧道	3.90(1.11)	3.10(1.09)	3.80(1.09)	3.50(1.08)	3.70(1.12)
平勝寺	4.17(0.99)	3.58(1.20)	3.58(1.20)	3.83(1.05)	4.25(1.12)
椿立小学校	3.77(1.02)	4.15(1.11)	4.23(1.11)	4.23(0.92)	4.54(1.04)

5. 考察

今回の調査結果より、椿立小学校や平勝寺、水車小屋の評価が高いことが明らかになった。これらは椿立自治区の重要な景観要素であるため、景観計画の中に取り入れる必要がある。

また、今回のアンケート調査では、地域住民と外来者の母数の差が大きい為、地域住民と外来者の差を明確にすることが出来なかった。次回調査では、無作為に調査対象者を選び、回答を得ることが必要となる。また、評価項目の関係性を明らかにすることによって、保全の重要性を明らかにすることが出来ると考えられる。

参考文献

- 1) 豊田市景観計画（2010）
- 2) 麻生恵・堀江篤郎（1993）：岡山県蒜山地域における景観計画都地域住民の景観認識構造について造園雑誌 56（5）、205-210
- 3) 栗田英治・松森堅二・山本徳司（2008）：地域住民及び地域外住民による棚田景観の認知・評価構造、農村計画学会誌 27、257-262
- 4) 加藤真希（2001）：中山間地域の景観に関する地元住民及び外来者の景観認識特性についての研究～新潟県川西町仙田地区を事例として～、東京農業大学修士論文
- 5) 椿立自治区集落史編集委員会（2008）：椿立家族ものがたり、pp303